

1 教科について

国 語

(1) 昨年度の取組みの見直し

(2) 今年度の課題及び指導改善

昨年度の課題

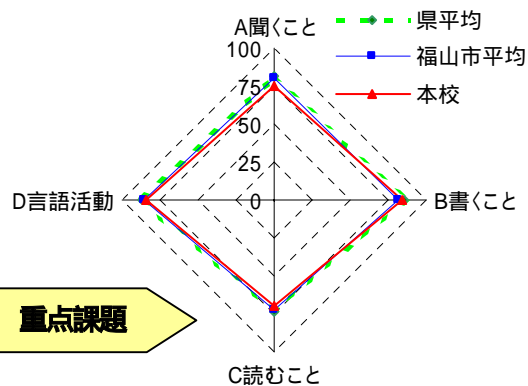
登場人物のものの見方, 考え方をとらえる力が弱く, 文章の中心部分を読み取る力が弱い。
伝えたい事実や事柄, 課題及び自分の考えをまとめる力が弱い。

達成状況

説明文においては, 文章の要点となる文・語句に着目させて読む指導を行った。小論文においては, 登場人物の心情をとらえるための質問, 活動を工夫した。
自分の考えとその根拠について書く機会を増やした。
お互いの書いた文章を交流する機会を増やした。

通過率

県平均	82.1 %
福山市平均	80.9 %
学校平均	80.0 %



重点課題

話の内容を的確に聞き取る力が弱い。

文章の内容を把握する力が弱い。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

Action

聞き取り問題の機会を増やし, 話の中心となる話題や要点をとらえるために, 話のテーマや展開に着目させながらキーワードをメモしていく指導を行う。

説明文においては, 引き続き文章の要点となる文・語句に着目させて読む指導を行う。小論文においても, 引き続き登場人物の心情をとらえるための質問, 活動を工夫する。

数 学

(1) 昨年度の取組みの見直し

昨年度の課題

計算反復練習を行い、基本的計算力を向上させること。
図形の分野で模型などを使って、視覚的に内容をとらえる
授業の展開を行う。

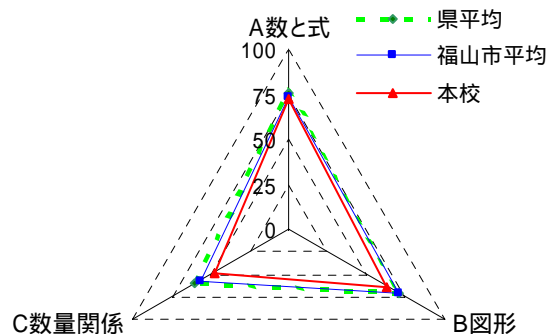
達成状況

毎時間の計算練習は実行できているが、昨年度よりも通過率が下回っている。
立体模型を授業で作るなどして、イメージをふくらませる授業が行えた。

(2) 今年度の課題及び指導改善

通過率

県平均	71.4%
福山市平均	68.8%
学校平均	64.9%



重点課題

基本的計算力の不足している生徒が多く、計算力を定着させることが必要である。

数量関係については、県平均を大きく下回っており、関数、方程式等の分野においての理解力を定着させることが必要である。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

Action

基本的計算力を定着させるために、授業の始めに計算練習を行ってきた。「数と式」の領域においては、平均を下回ってはいるものの、他の領域と比較して、ほぼ平均に近くなっており一定の成果はあった。しかし、授業の始めの小テストに加えて、授業後の確認テストを取り入れることにより、より多くの計算を解く取り組みを行う。

身の回りの現象を授業に取り入れ、生徒の生活体験を合わせた授業を展開していく。また、グラフや表などを用いた視覚的な発想、答えが身に着くような教材、教具の工夫をしていく。コンピューター等を利用して生徒が興味を持って、「数量関係」の領域に取り組めるよう指導内容を工夫をしていく。

英語

(1) 昨年度の取組みの見直し

昨年度の課題

「話すこと」については、ペアでの1問1答からいて一定時間内での会話ができるよう段階的な会話指導を行う
「書くこと」については、小テスト等を行い、語彙を定着させ、英作文などの語順の誤りを全体で補足し、意識を高める

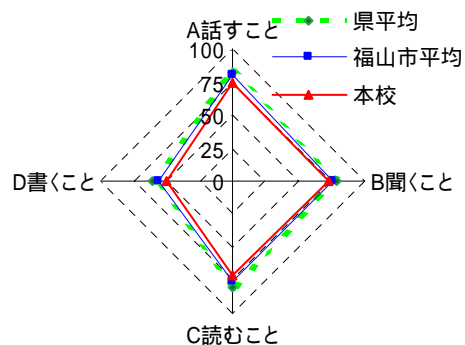
達成状況

「話すこと」については、基本的な表現や、簡単な単語を使って、続けようとする姿勢が見られるようになった。
基本文や特徴な慣用句などについては、音声から文や語句を選択することができる。

(2) 今年度の課題及び指導改善

通過率

県平均	76.3	%
福山市平均	72.5	%
学校平均	68.2	%



重点課題

「書くこと」について、正しい単語のつづりや文の語順を定着させる。
「話すこと」について、基本文や語彙をより多く定着させる。

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

Action

「書くこと」については、単語や基本文を何度も繰り返し書かせる指導を行うとともに、自分のことや身近な話題についても、「話すこと」だけではなく、書くことによってより多くの語句やフレーズを習得できるようにする。そのためには、演習問題だけにとどまらず、英作文をより多く課題として設定し、「書くこと」について慣れさせ、定着を図っていく。また、基本的な文章だけではなく、教科書に出て来る慣用句などを使った短文などを書かせ、自分の考えや状況を相手にわかりやすいように表現できるようにさせる。

「話すこと」については、授業始めにウォーミングアップとして、ペアワークでいくつかのパターンを繰り返し練習させる。その際、生徒のマナー化を防ぐために、タイムトライアルや自己(他者)評価を入れる。また、基本的なパターンだけでなく、教科書に出てくる慣用句なども用いて、「書くこと」で扱った英文を活用し、場面にあった会話ができるようにする。

2 生活と学習に関する意識・実態について（学校質問紙調査及び生徒質問紙調査による）

（1）領域等別

区分	改善したい点	今後の具体的な取組みの内容
コミュニケーション及び自己実現力	他者の考えを受け入れるとともに、自分の考えを伝えることができるようになる。 将来の夢や目標をもてるようになる。	各教科並びに道徳、学活での活動において自分の考えを伝えたり、他者の考えの交流ができる場面を設定していく。 短期、長期の目標を設定させ、自己評価を行わせていく。
論理的思考力	自主的な学習が行える。 授業中自分の考えをもち、その考えを説明することができる力。	各教科において、問題解決型の学習を仕組む。また、家庭学習の充実させるための取組みを行う。 自分の考えがもてる発問、場面の設定を行う。

（3）領域等別 …教科学習への意識

教科	生徒の回答と学校の指導についての課題	授業改善の方向性や具体的な取組み
国語	全ての質問項目について「あてはまらない」の回答が高い割合を占め、国語の授業への意欲の低さが読み取れる。 「国語の勉強は好き」と答えた数に対して、「国語の授業を楽しみにしている」と答えた生徒は少なく、学校の指導として、生徒の興味関心をひくような工夫が必要である。	まずは授業の導入部分に工夫を加え、生徒がその教材に興味をもって臨めるような手だてを考える。1時間ごとの授業のポイントをより明確にするために、授業の最後にその日の授業を振り返っての説明をし、再度ポイントを整理する。
数学	設問25の「数学の授業では比例・反比例の表を見るときには、表を縦の対応や横の数量の変化をみて、決まりを見つけられています」の項目について、県平均よりも12%肯定率が低かった。このことから、比例・反比例の分野において、表、グラフ、式のつながりが見いだせておらず、これから学習していく、1次関数、2次関数の分野の前に指導が必要である。	グラフや表などを用いた視覚的な発想、答えが身に着くような教材の工夫をしていく。その際、表、グラフ、式のつながりに重点を置く。 また、コンピューター等を利用して生徒が興味を持って、「関数」の分野に取り組めるよう工夫していく。
英語	設問30、29の回答から、ほとんどの生徒が英語に対して、興味・関心が薄いことがわかる。それに対し、設問31、37の回答から「わかるようになりたい」といった意欲が伺える。また、設問35よりペアやグループによるアクティブな活動を好んでいることがわかる。従って、今後の課題として、activity work を多く取り入れ、興味・関心を高めていくことが必要である。	毎時間、授業の始めにペアワークを取り入れながら興味・関心を高め、基本的な会話に慣れさせていく。その後、教科書に出てくる慣用語や自分たちで場面を設定した会話形式の英作文などを用いて、発展的な実用英会話などにも挑戦させ、意欲を高めていく。

指導改善のための実施スケジュール

	～9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
	Plan	Do		Check		Action		
	H18の改善計画の実施				検証	次年度の計画		
	結果の分析・H17の改善計画の見直し							
【教科】								
国語			毎時間の漢字帳の点検・導入の工夫・授業後のポイント整理と自己評価			CRT標準テスト		
数学			身近な生活体験の教材化	毎時間の計算ドリルの実施		視覚的に授業を捉える展開		
		定期テストで問題を扱う		定期テストで問題を扱う		CRT標準テスト	定期テストで問題を扱う	
英語		基本文を使っのペアワーク			慣用句、英作文を使っのワーク			
						CRT標準テス		
【生活】	各学級、各教科において生徒アンケート等による実態調査	校内研修において課題及び方策の検討	道徳の授業研究を行う	各学級、各教科において生徒アンケート等による実態調査	校内研修において課題及び方策の検討	再設定の取組	各学級、各教科において生徒アンケート等による実態調査の分析と次年度の課題設定と取組の検討	校内研修において課題及び方策の検討
【学習】	各教科での本年度の課題の再検討及び交流	設定課題の取組	生徒、教師アンケートにより取組の成果と課題の分析と方策の検討	設定課題の取組	生徒、教師アンケートにより取組の成果と課題の分析と方策の検討	再設定課題の取組	各教科での成果と課題及び次年度の課題設定と取組検討	設定課題の取組